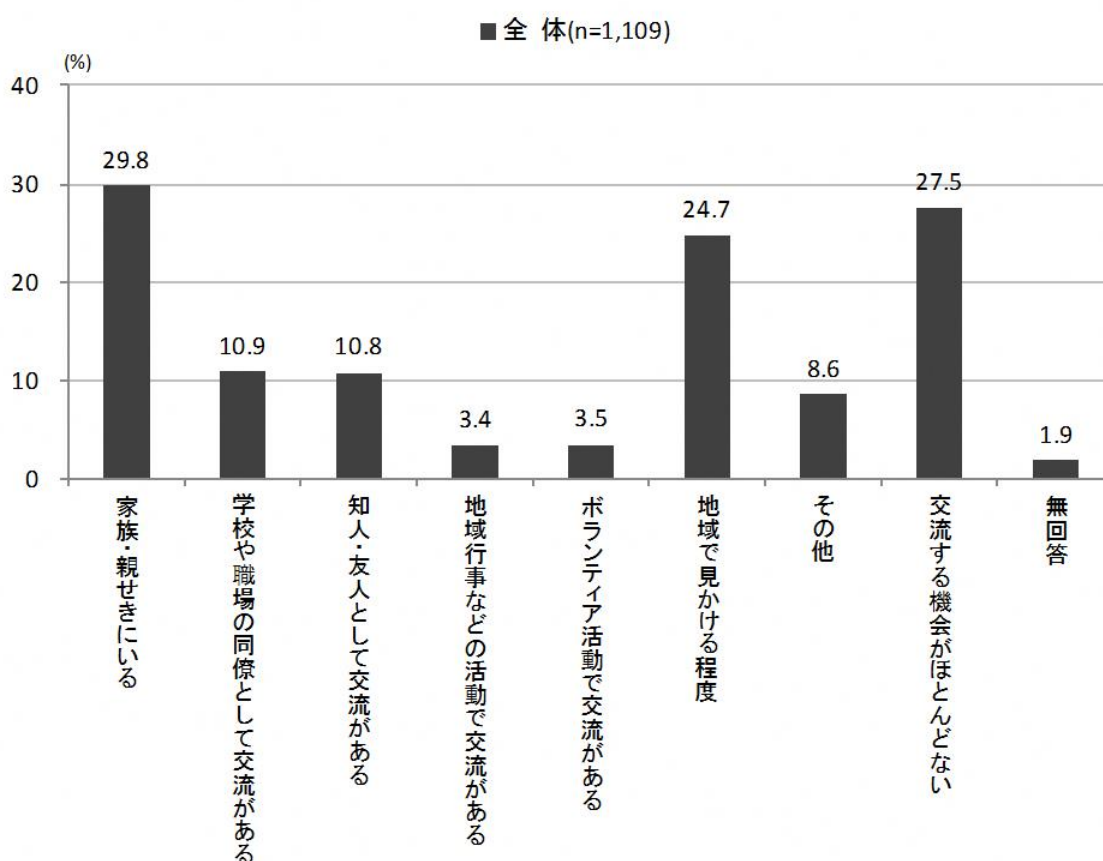


ii 障がい福祉に関する市民アンケートの調査結果(一般市民)【概要版】

(2) 障がいのある人との交流有無

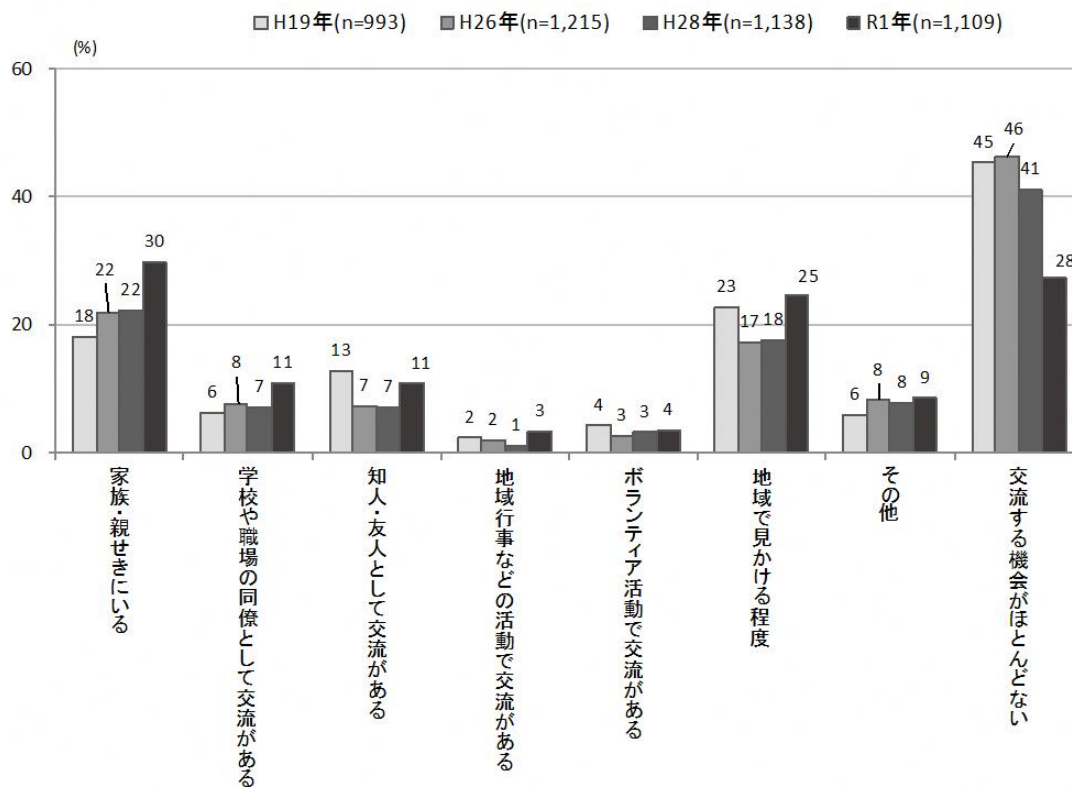
問2 あなたは日頃、障がいのある人と交流はありますか。(〇はいくつでも)

障がいのある人との交流について、「家族・親せきにいる」は29.8%、「学校や職場の同僚として交流がある」10.9%、「知人・友人として交流がある」10.8%となっている。一方、「交流する機会がほとんどない」は27.5%となっている。



<経年変化>

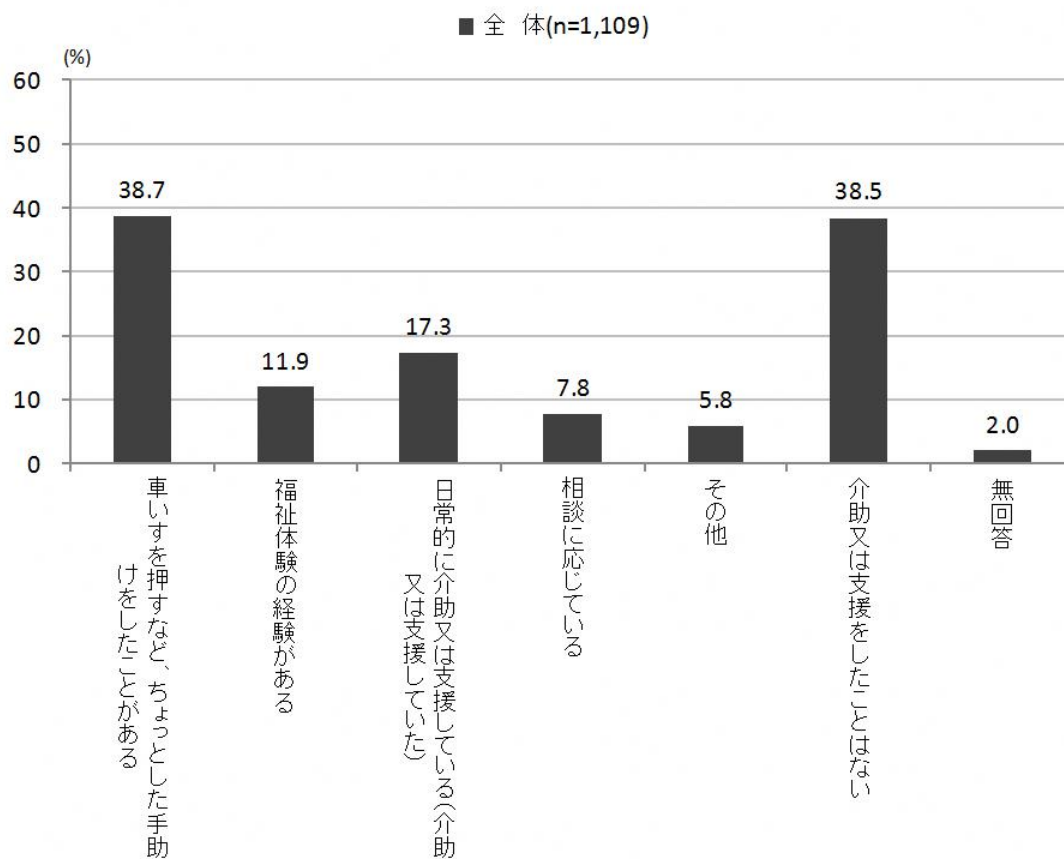
過去3年の調査結果と比べて「交流する機会がほとんどない」の割合が大きく減り、「家族・親せきにいる」「学校や職場の同僚として」「知人・友人として」などの交流が増えているほか、「地域で見かける程度」も増加した。



(3) 障がいのある人の介助経験

問3 あなたは、障がいのある人の介助又は支援をしたことがありますか。(○はいくつでも)

「車いすを押すなど、ちょっとした手助け」が38.7%で最も高く、次いで「日常的に介助または支援している」が17.3%、「福祉体験で経験」11.9%となっており、障がいのある人の介助・支援を経験した人は6割にのぼる。

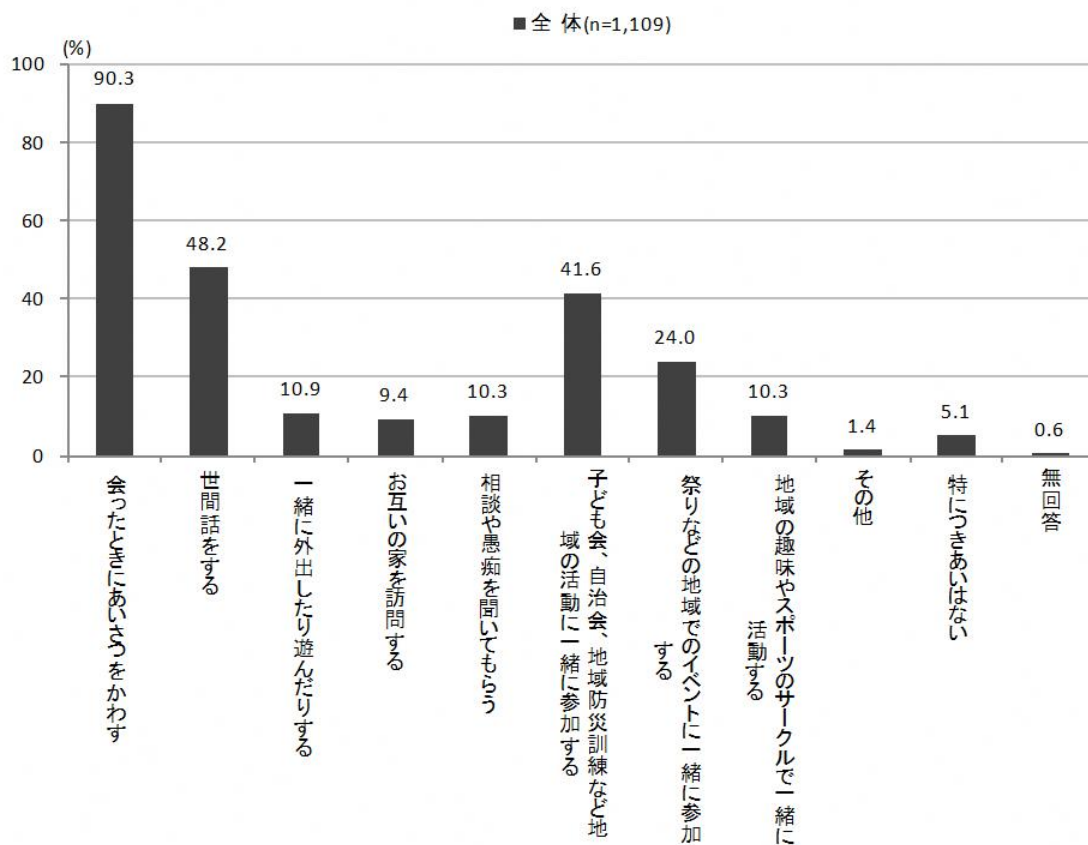


2. 地域での生活について

(1) 近隣・地域の人との関わり方について

問 5 あなたは、近隣・地域の人との程度のつきあいをしていますか。(〇はいくつでも)

近隣・地域の人とのつきあいについて、「会ったときにあいさつをかわす」が90.3%で最も高い。次いで「世間話をする」48.2%、「子ども会、自治会、地域防災訓練など地域活動と一緒に参加する」41.6%の順。

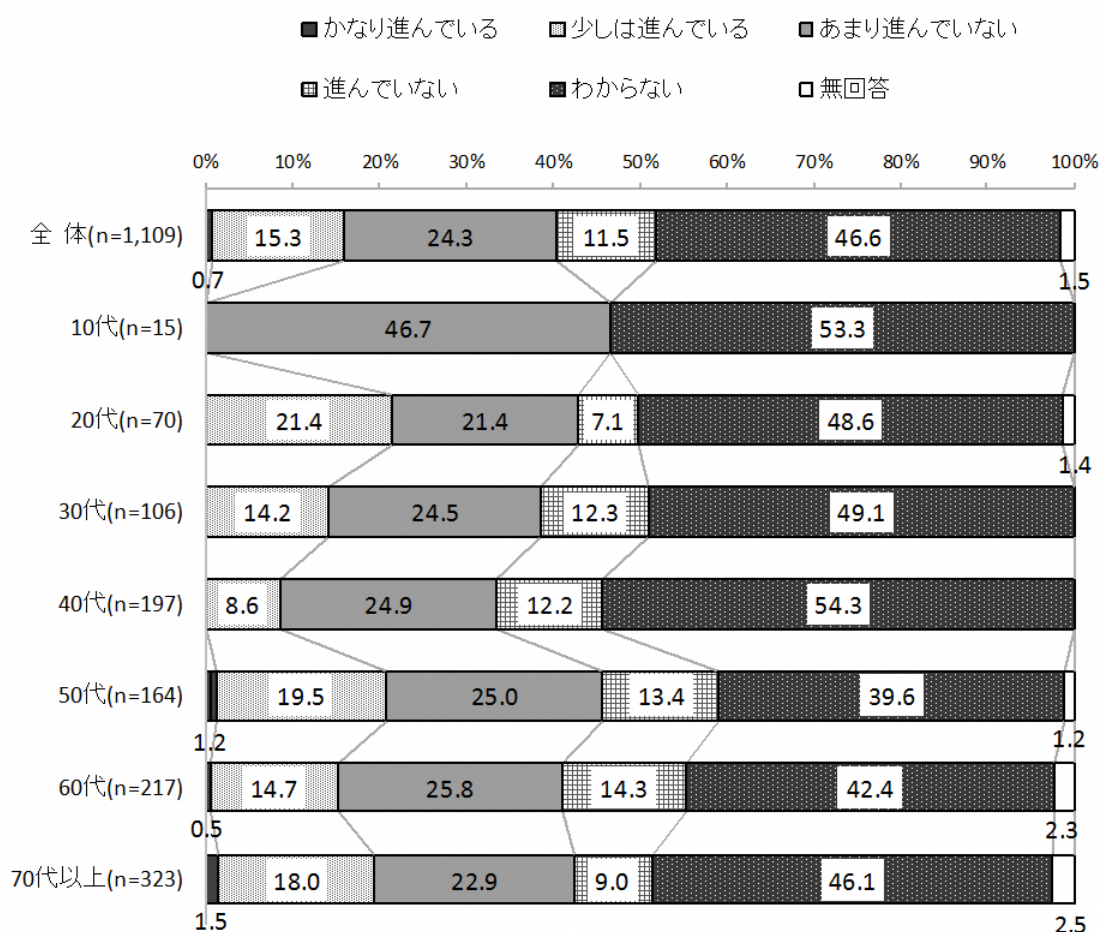


(2) 「地域における共生」の進捗状況

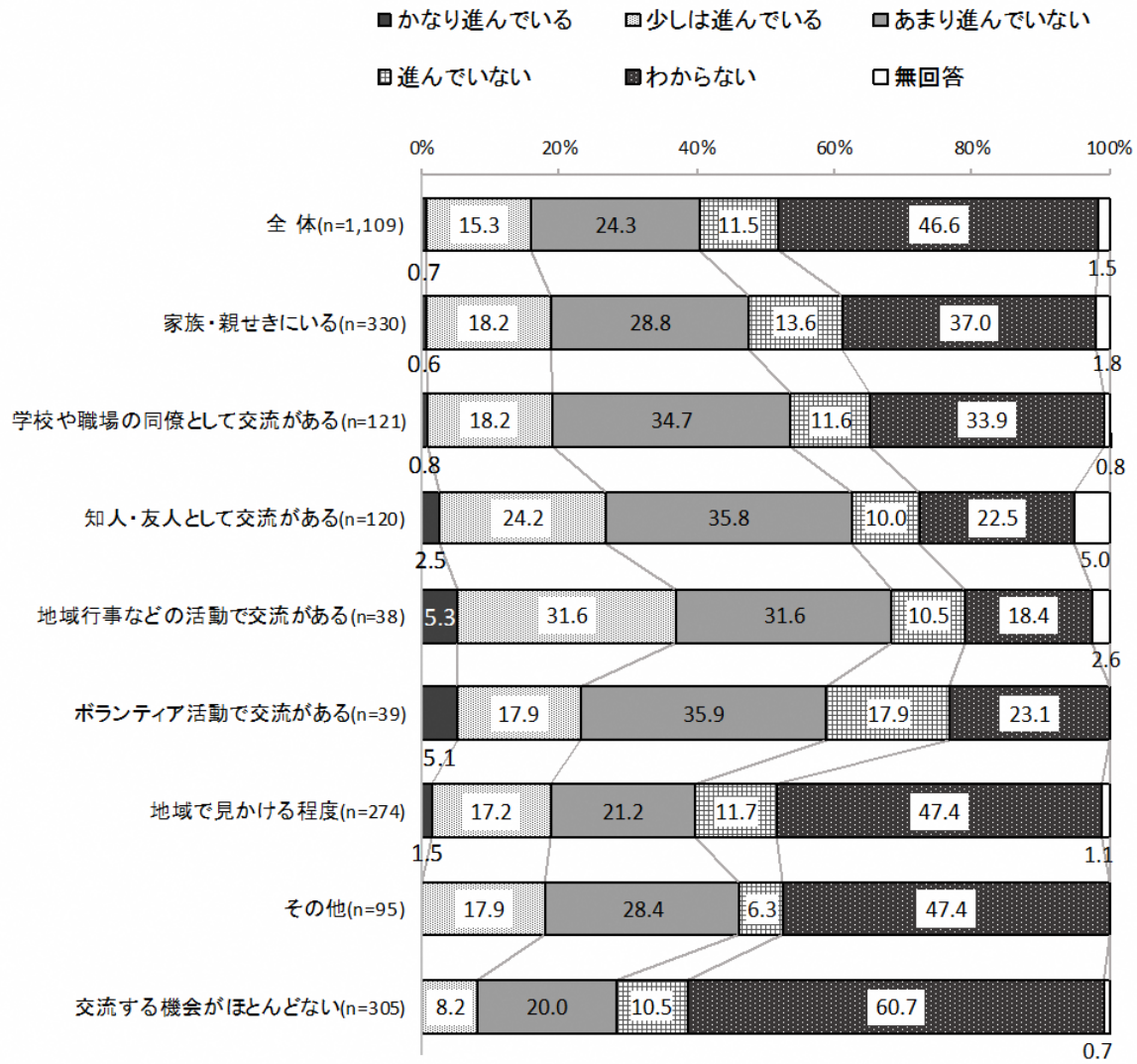
問6 静岡市は、「地域における共生(障がいのある人もない人も、お互いに大切に、支え合い、地域で安心して自分らしく暮らすことができること)ができる都市を目指しています。あなたの身近では、「地域における共生」がどの程度進んでいると思いますか。(〇は1つ)

「地域における共生」について、「かなり進んでいる」が0.7%、「少しは進んでいる」が15.3%で、進んでいると感じている人は2割に満たない。

障がいのある人との交流状況別でみると、地域行事などの活動で交流がある人では「かなり進んでいる」「少しは進んでいる」と回答した人が3割を超したものの、障がいのある人と何らかの交流がある人でも、進んでいると感じる人は少数となっている。



<障がいのある人との交流状況別>

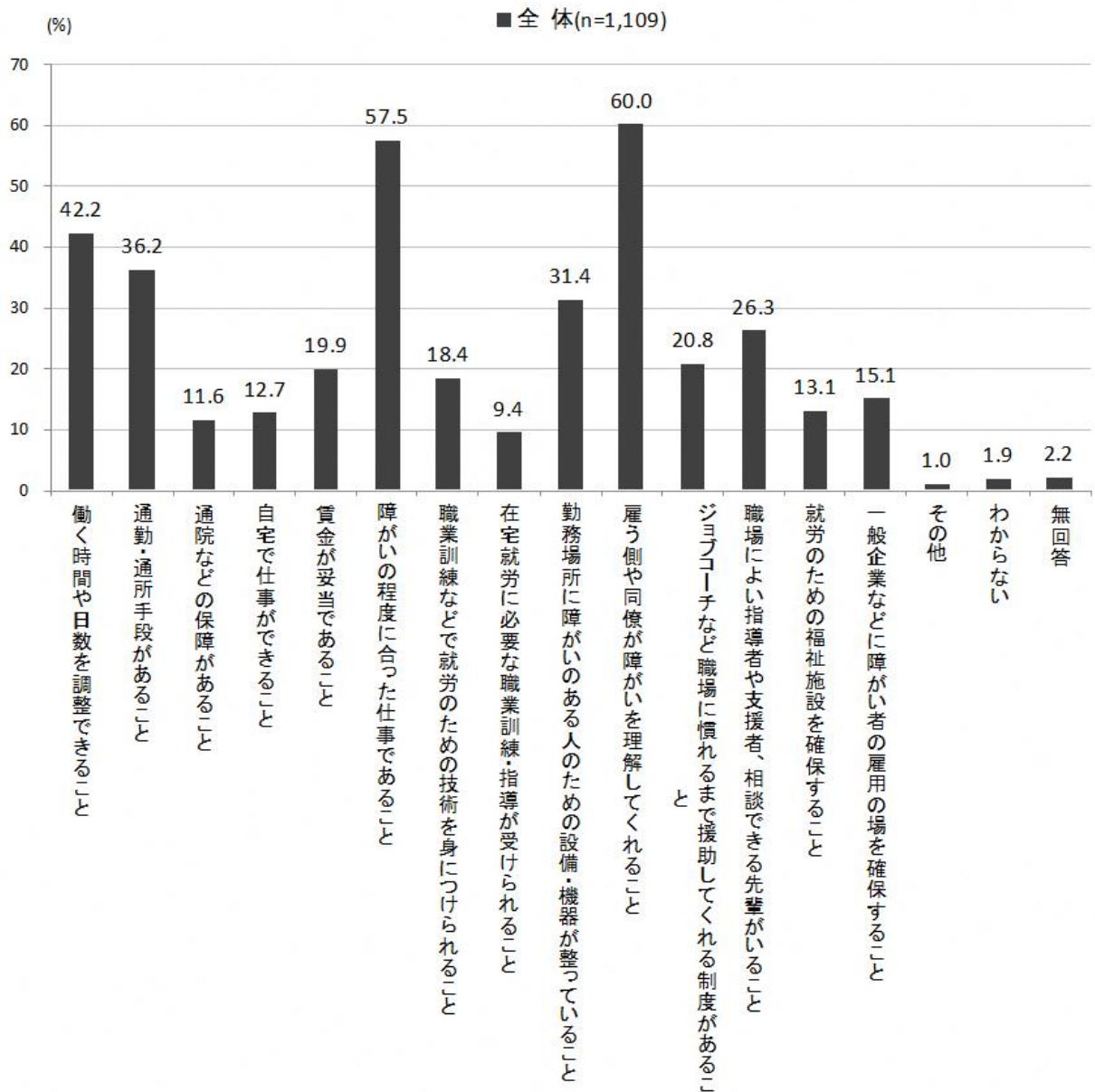


3. 障がいのある人の雇用・就労について

(1) 障がいのある人が働くために必要な環境整備

問 11 あなたは、障がいのある人が働くためには、主にどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。
(○は4つまで)

障害のある人が働くために必要だと思われることは、「雇う側や同僚が障がいを理解してくれること」が60.0%で最も高く、僅差で「障がいの程度にあった仕事であること」が57.5%と並び、「働く時間や日数を調整できること」42.2%、「通勤・通所手段があること」36.2%と続く。



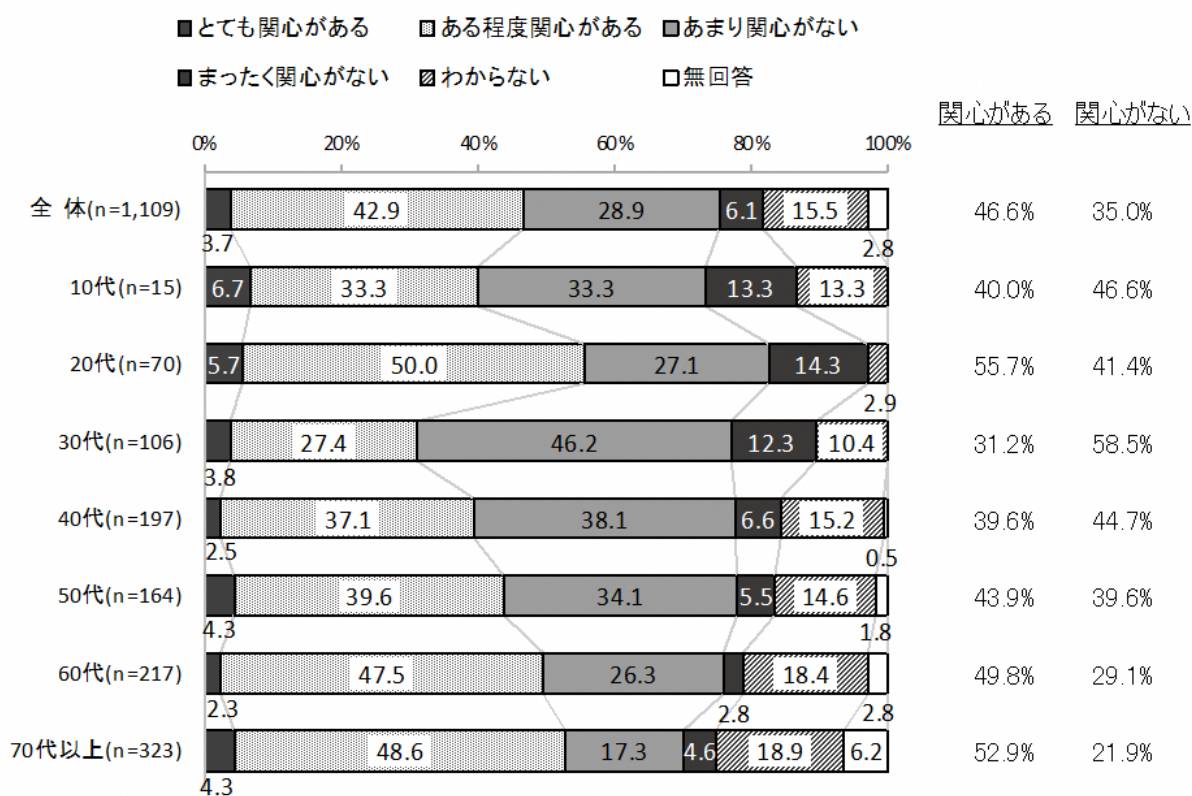
4. ボランティア活動への参加について

(1) 福祉関係のボランティア活動への関心

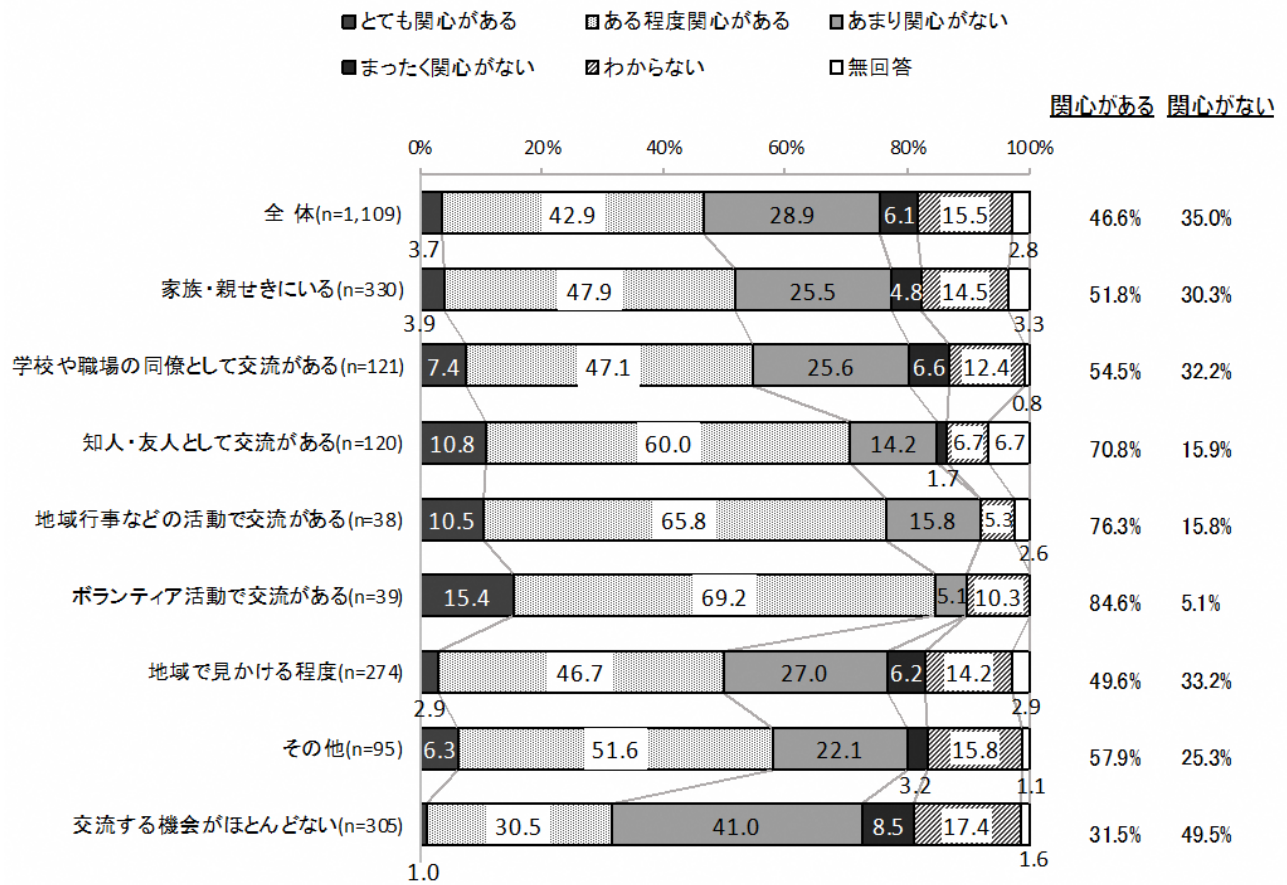
問 12 あなたは、福祉関係のボランティア活動への参加について関心がありますか。(○は1つ)

福祉関係のボランティア活動への関心度について、全体では「とても関心がある」3.7%、「ある程度関心がある」42.9%で関心のある人はおよそ5割となっている。

障がいのある人との交流状況別でみると、何らかの交流をもっている人のほうが、交流する機会がほとんどない人と比べて、関心のある人の割合が高めとなっている。特に地域行事などの活動で交流のある人、ボランティア活動で交流のある人で関心が高く、関心のある人が8割前後にのぼる。



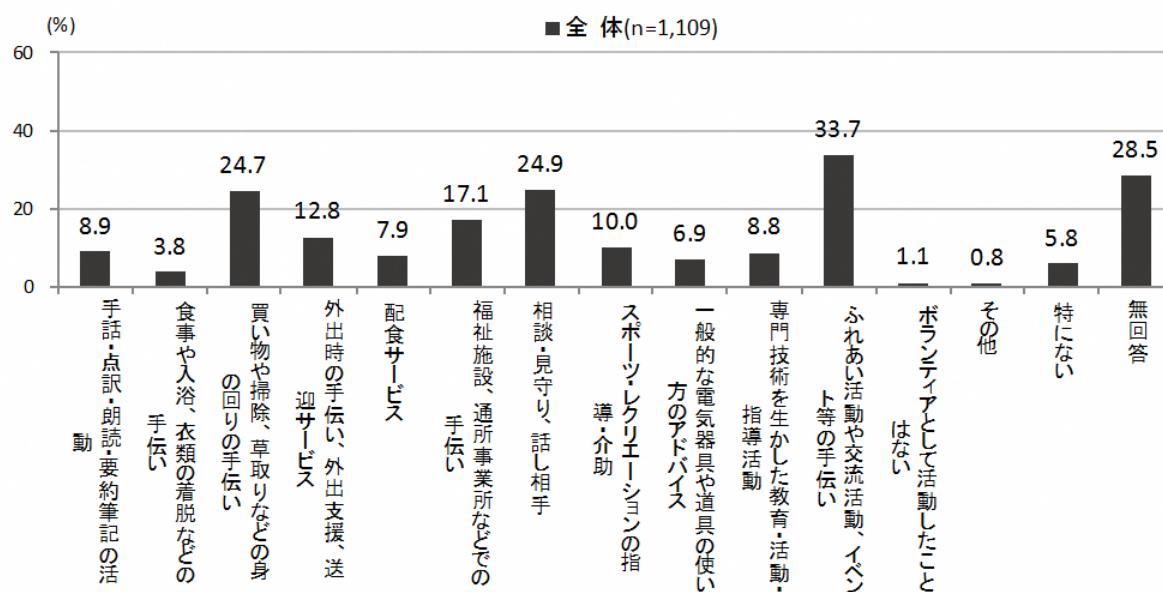
<障がいのある人との交流状況別>



(3) 今後参加してみたいボランティア活動

問 14 あなたは、今後、ボランティアとして、どのような活動に参加したいと思いますか。前問(問13)の選択肢の中から3つ選んでその番号を記入してください。

今後参加してみたいボランティア活動については、「ふれあい活動や交流活動、イベント等の手伝い」33.7%、「相談・見守り、話し相手」24.9%、「買い物や掃除、草取りなどの身の回りの手伝い」24.7%、「福祉施設、通所施設などでの手伝い」17.1%の順となっている。



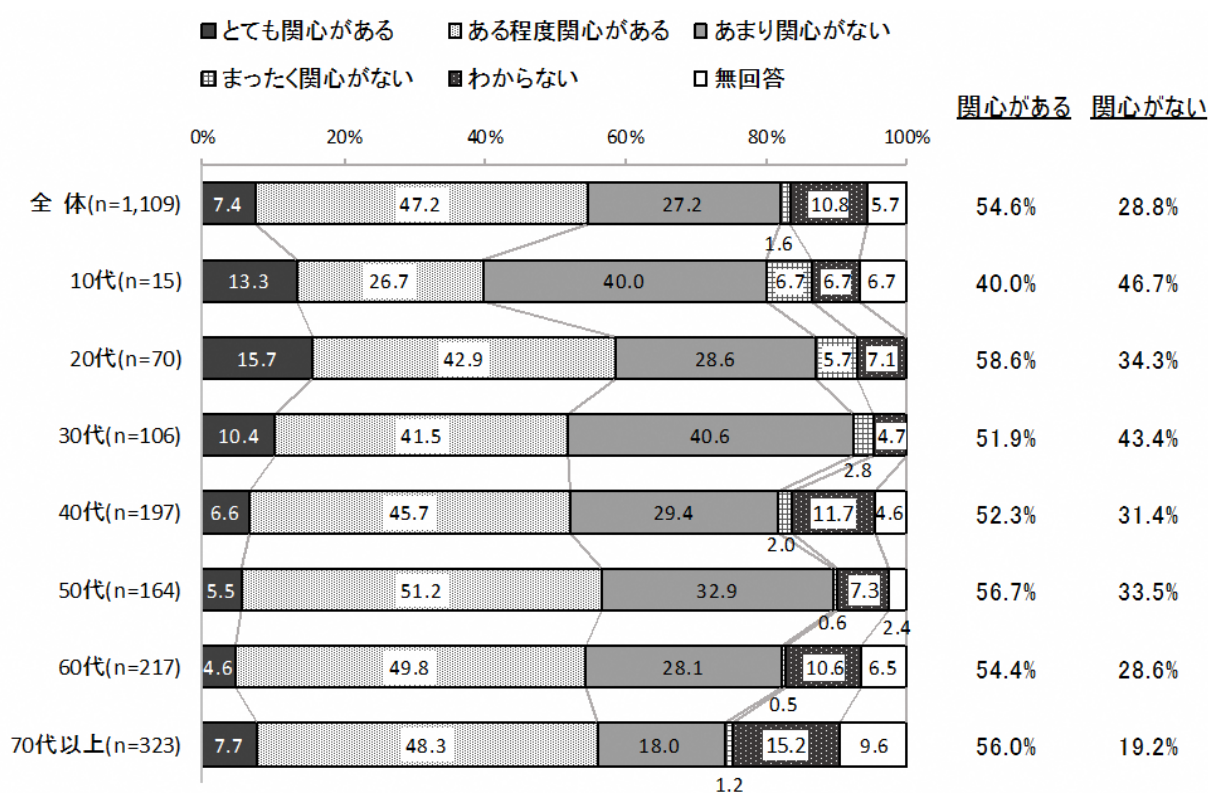
4. 障がいのある人への理解について

(1) 福祉への関心

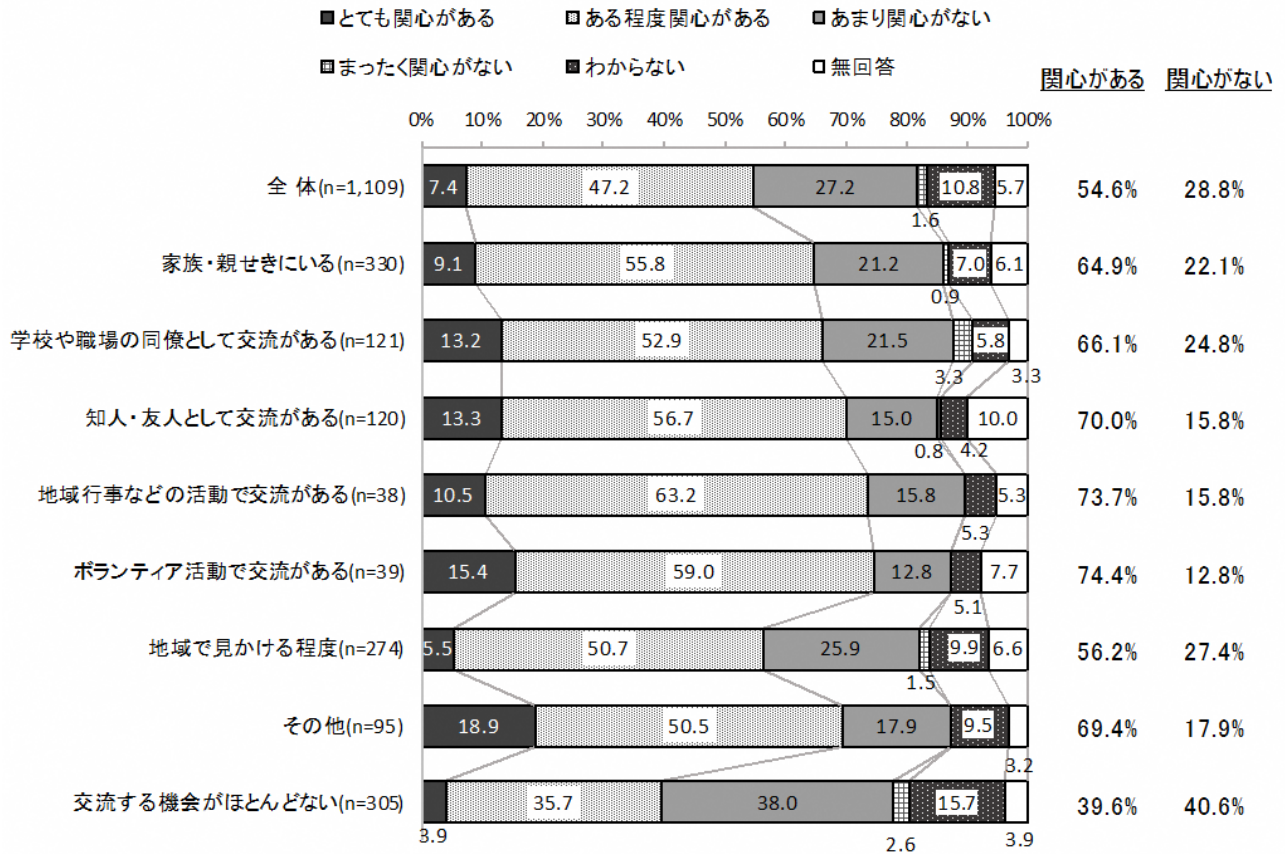
問 15 あなたは、福祉について関心がありますか(○は1つ)

福祉への関心については、「とても関心がある」が7.4%、「ある程度関心がある」47.2%で、関心のある人が5割以上を占めている。

障がいのある人との交流状況別でみると、交流する機会がほとんどない人たちと比べ、何らかの交流がある人たちのほうが関心のある割合が高くなっている。特に「知人・友人として」、「地域行事などの活動で」、「ボランティア活動で」交流のある人では、7割が関心を持っている。



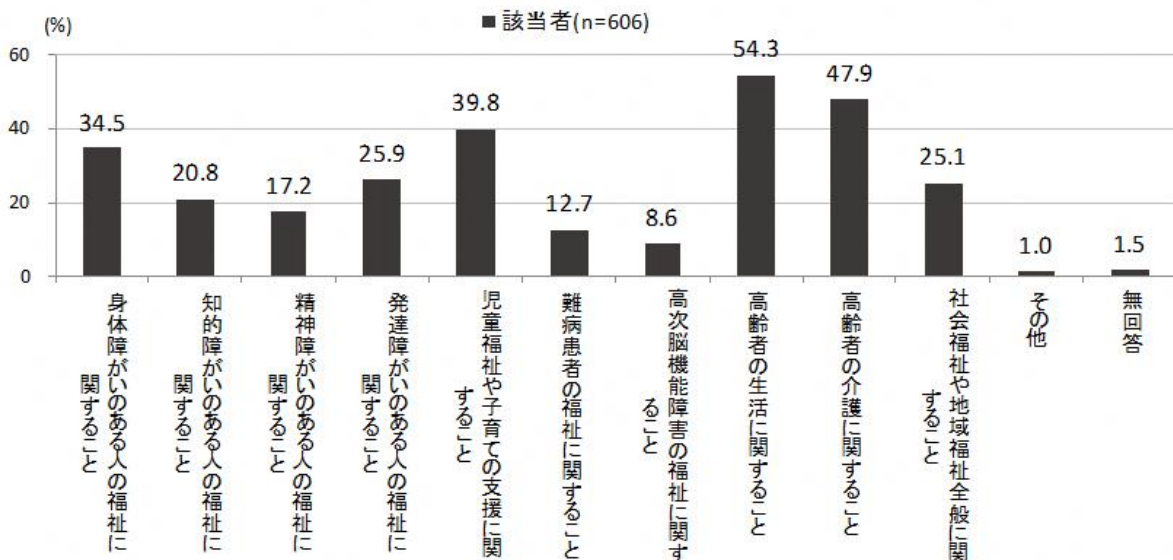
＜障がいのある人との交流状況別＞



(問 15 で「1 とても関心がある」「2 ある程度関心がある」と回答された方にお伺いします。)

付問① あなたが関心のある福祉の分野は何ですか(○はいくつでも)

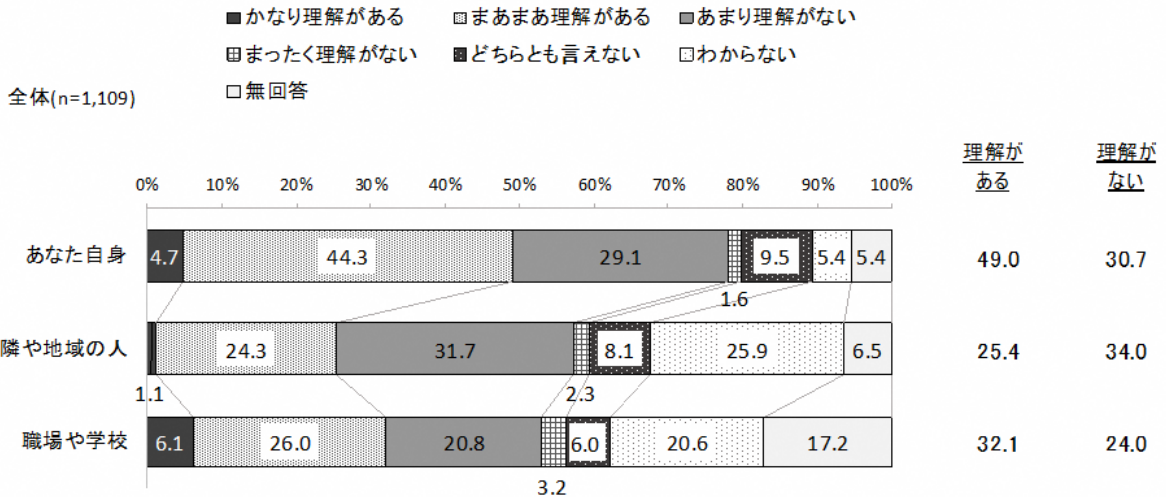
関心を持っている人に対し、関心のある福祉分野をたずねたところ、「高齢者の生活に関すること」が 54.3%で最も高く、次いで「高齢者の介護に関すること」47.9%、「児童福祉や子育ての支援に関すること」39.8%、「身体障がいのある人の福祉に関すること」34.5%となっている。



(2) 障がいのある人への理解

問 16 あなたやあなたの身近なところでは、障がいや障がいのある人に対してどの程度理解があると感じていますか。理解の程度をお答えください。(〇は1つ)

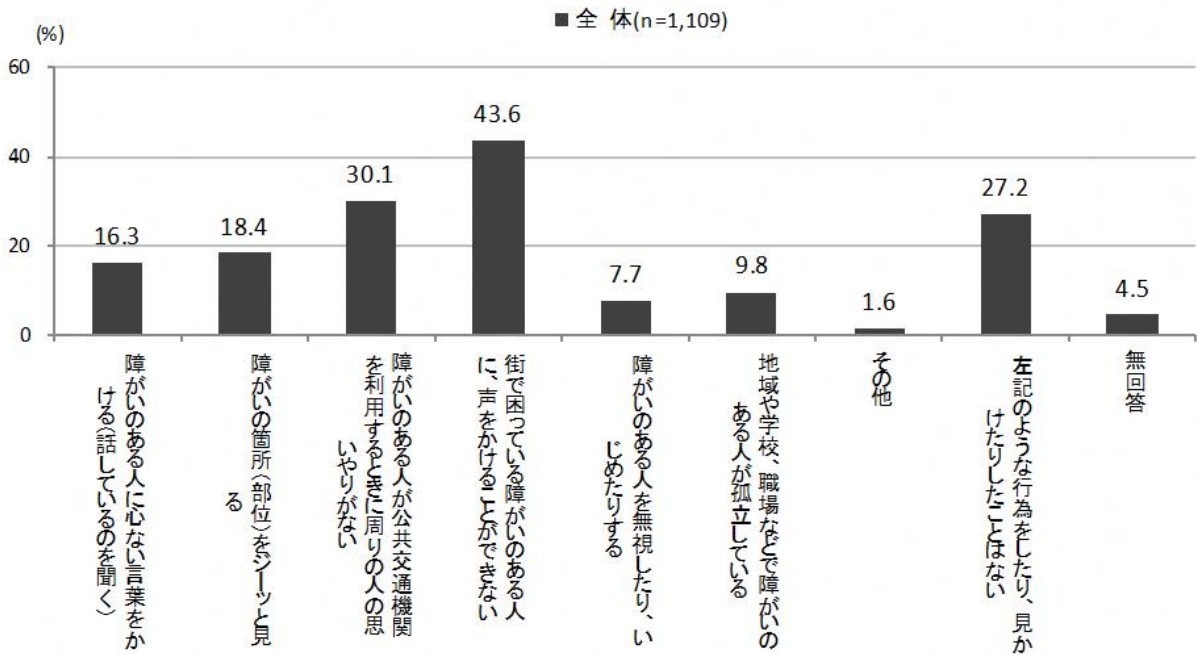
障がいのある人への理解について、「かなり理解がある」または「まあまあ理解がある」と回答した理解がある人の割合をみると、自身については49.0%、近隣や地域の人については25.4%、職場や学校では32.1%となっている。



(3) 障がいのある人への理解が進んでいないと感じる行為

問 17 あなたは、障がいのある人に対して、次のような障がいへの理解が進んでいないと感じる行為をした、または、見かけたことがありますか。(〇はいくつでも)

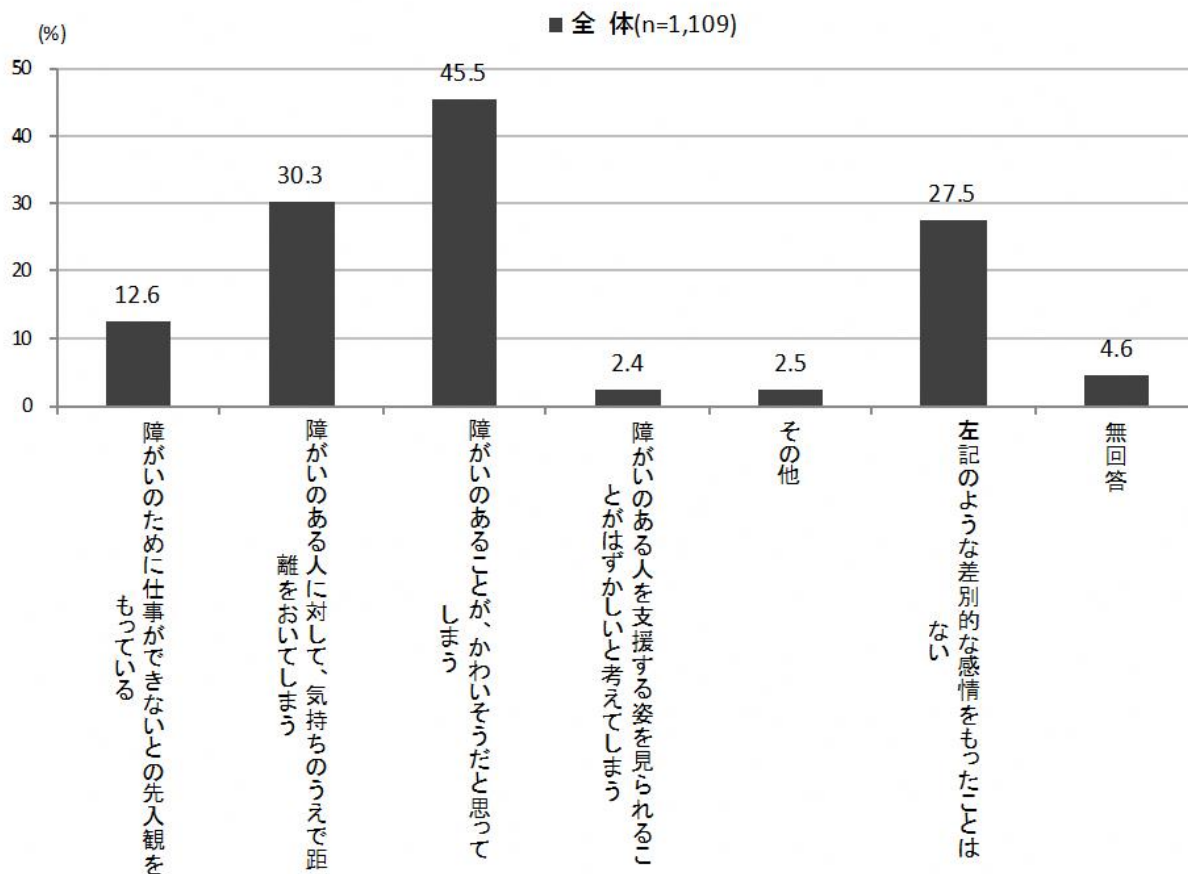
障がいのある人への理解が進んでいないと感じる行為として最も多いのは、「街で困っている障がいのある人に、声をかけることができない」の43.6%。次いで「障がいのある人が公共交通機関を利用するとき周りの人の思いやりにくい」30.1%、「障がいの箇所をジッと見る」18.4%、「障がいのある人に心ない言葉をかける」16.3%の順となっている。



(4) 障がいのある人に対する感情

問 18 あなたは、障がいのある人に対して次のような感情をもったことはありますか。(〇はいくつでも)

障がいのある人への感情として最も多いのは「障がいのあることが、かわいそうだと思ってしまう」が45.5%で、次いで「障がいのある人に対して、気持ちのうえで距離をおいてしまう」30.3%となっている。

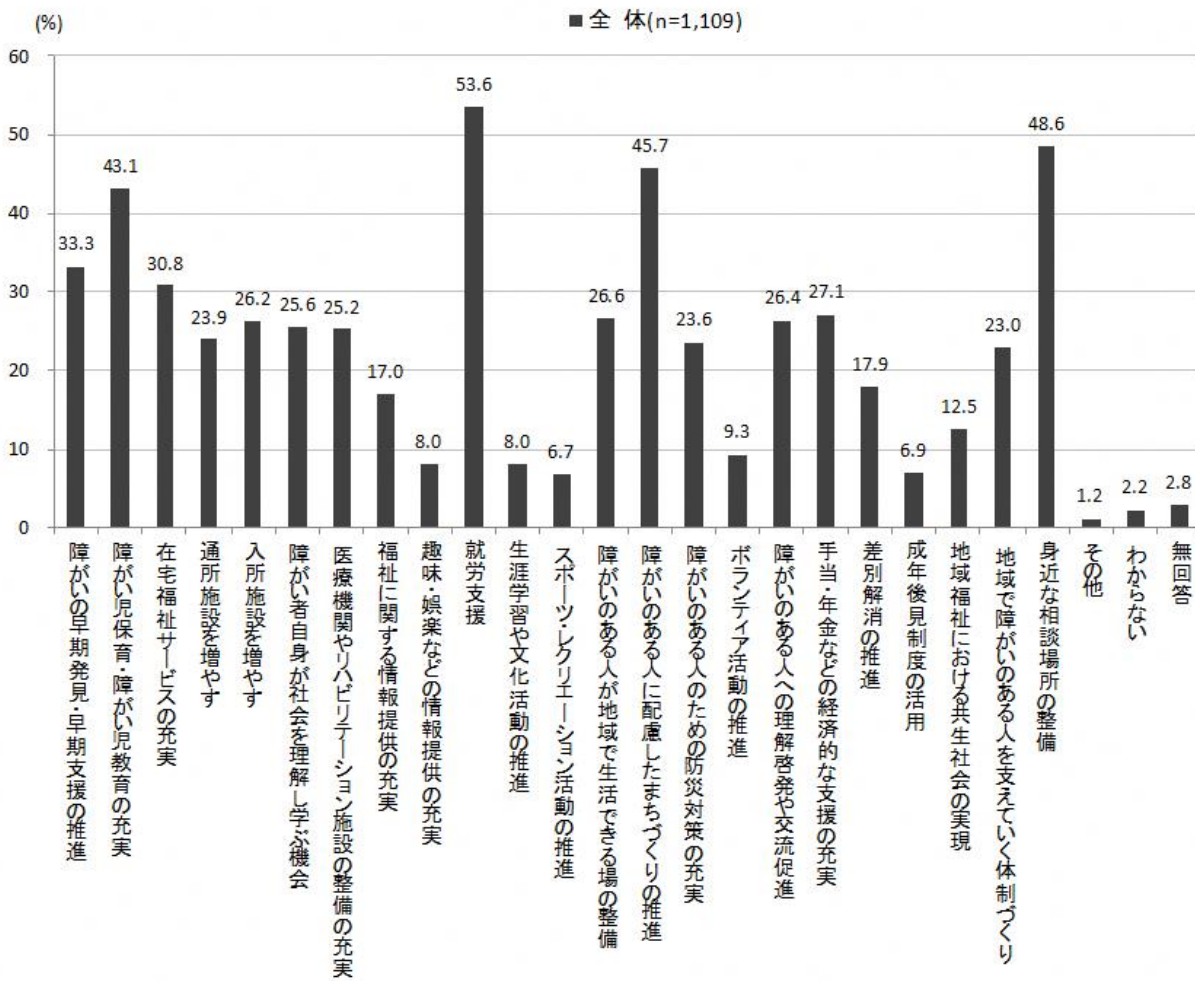


5. 障がい福祉に関する施策について

(1) 障がい福祉事業への要望

問 22 あなたは、障がいのある人が安心して暮らしていくために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は7つまで)

障がい福祉事業へのニーズとして高いのは「就労支援」53.6%、「身近な相談場所の整備」48.6%、「障がいのある人に配慮したまちづくりの推進」45.7%、「障がい児保育・障がい児教育の充実」43.1%、「障がいの早期発見・早期支援の推進」33.3%など。



<経年変化>

平成19年・26年の調査では選択肢が5つまでだったのが、平成28年の調査からは7つまで選択可能になっているので比較には注意が必要だが、「就労支援」は依然高く、「障がい児保育・障がい児教育」が伸びている。

※ 「地域で障がいのある人を支えていく体制づくり」、「身近な相談場所の整備」は平成26年調査より新設。「障がい者自身が社会を理解し学ぶ機会」、「趣味・娯楽などの情報提供の充実」、「就労支援」、「差別解消の推進」、「成年後見制度の活用」、「地域福祉における共生社会の実現」は平成28年調査より新設。「障がいの早期発見・支援の推進」は平成19年・26年・28年調査では「障がいの早期発見・早期治療事業の推進」、「就労支援」は平成19年・26年調査では「就労支援や雇用の拡大」、「障がいのある人が地域で生活できる場の整備」は平成19年調査では「障害者が住みやすい住宅の確保や居住環境の改善・整備」と表現されている。
 ※ 平成19年・26年では○は5つまで、平成28年・令和元年では○は7つまで。

